

ACCOUNTING  
INTELLIGENCE

ACCOUNTING INTELLIGENCE OFFICIAL WEB

# ストーリーでわかる 簿記の基本

公認会計士 望月 実

無料レポート「ストーリーで分かる簿記の基本」をダウンロードしていただき、ありがとうございました。このレポートは2006年7月6日に日本実業出版社から発売した「会計のトリセツ」の原稿から抜粋したものです。(このレポートは原稿をベースに作成しており、最終的な書籍の内容とはいくつか異なっている点があります。)

私は簿記の勉強をはじめたときにイメージがわからずに、とても苦労しました。そのような経験から『会計のトリセツ』では起業家を主人公としたストーリーを楽しみながら日商簿記2・3級レベルの内容が理解できるように工夫しています。

会計のトリセツ紹介ページ

<http://ac-intelligence.jp/torisetsu/index.html>

なお、このレポートはご自由に転送していただいて結構です。みなさまのまわりで簿記や会計について知りたいという方がいらっしゃいましたらこのレポートを、ぜひご紹介下さい。

今後もいろいろな無料レポートをダウンロードできるようにする予定です。無料レポートの情報につきましては、「経済丸わかり～公認会計士が教える使える知識」というメルマガでお伝えしますので、興味のある方は下記のアドレスよりご登録下さい。

望月 実

アカウントティング・インテリジェンス

(HP) <http://ac-intelligence.jp/>

経済丸わかり～公認会計士が教える使える知識

(メルマガ) <http://blog.mag2.com/m/log/0000153671/>

## 目次

簿記の新しい学習方法 .....	4
<b>第1章 プロローグ</b> .....	<b>5</b>
エンジェルとの出会い .....	5
プロジェクトチーム .....	11
<b>第2章 会計と簿記の基礎</b> .....	<b>14</b>
1. 株式会社、投資家、債権者、会計のホットなトライアングル 会計とは「コミュニケーションツール」である .....	15
2. 新会社法で要求されている財務諸表とは 貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書のアウトラインを知っておこう .....	18
3. たった30分で分かる簿記のツボ 仕訳には財産（純資産）が「増える」「減る」「変わらない」の3パターンしかない！ .....	23
4. 新会社法で要求されている財務諸表とは 貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書を実際に読んでみよう .....	33
<b>第3章 ストーリーを楽しみながら簿記を学ぶ</b> .....	<b>38</b>
P H A S E 1（株式会社イースタン・ヴィークルの設立） .....	39
<b>会計のトリセツ目次</b> .....	<b>45</b>
<b>著者プロフィール</b> .....	<b>47</b>
<b>望月実の書籍</b> .....	<b>48</b>
＜数字がダメな人用＞会計のトリセツ .....	48
会計を使って経済ニュースの謎を解く .....	48
有価証券報告書を使った決算書速読術 .....	49

## 簿記の新しい学習方法

一般的に簿記は次の と を繰り返すことによって学習を進めていきます。

仕訳を丸暗記する  
計算機をたたいて仕訳の数字を集計する

理屈を考えずに数多くの仕訳を丸暗記しようとする、頭が混乱する上に、しばらくすると忘れてしまいます。また、計算機をたたいて数字を集計するのは、数字が好きな方以外は苦痛ですよ。

私も簿記をマスターするのは大変でした。

そこで、効率良く簿記をマスターするために本書では、次の方法で簿記の学習を進めていきます。

会計と簿記を同時に学ぶことによって仕訳の意味を理解する  
数字の集計過程を理解する

膨大な量の仕訳を丸暗記するのは、大変です。そこで本書では仕訳の基礎となる会計も同時に学ぶことによって、仕訳の意味を理解することを目標としています。仕訳の意味を理解すれば、習っていない仕訳も理屈から考えて推測できるようになります。

とはいっても初心者の方には仕訳自体がとっつきにくいですよ。そこで、「たった30分で分かる簿記のツボ」(P23)というコーナーを作り、仕訳を3つのパターンに分けて説明しています。

また、実務では会計ソフトを使用して仕訳の数字を集計するため、数字の集計過程は以前ほど重要ではなくなりました。そこで、本書では計算機を実際にたたくのではなく、数字の集計過程を説明することにとどめました。そのため、本書を使用して簿記を学習すると、従来の方法よりも数倍早く簿記が分かるようになります。

## 第1章 プロローグ

### エンジェルとの出会い

中尾君は営業の仕事をしているサラリーマンですが、いつか自分のアイデアを基にビジネスを始めたいと考えていました。

そんな時、居酒屋でたまたま隣り合った大藪<sup>おおやぶ</sup>氏に、アボリジナルアートを輸入して販売するビジネスをしたいという夢を話しました。(アボリジナルアートとは、オーストラリアの先住民であるアボリジニが発祥となった、とても色彩豊かなアートです。) たまたま大藪氏もオーストラリアに旅行へ行き、アボリジナルアートを気に入っていたため2人は意気投合しました。

大藪氏の話聞いたところ、彼はエンジェル(ベンチャー企業の創業時に資金援助を行う個人投資家をエンジェルといいます。)で何か面白いビジネスプランを探しているとのこと。中尾君に対して、明日きちんとした事業計画書を持ってきたら出資を考えるとと言いました。

嘘のような話ですが、だいたい物事が起こる時はこのような偶然があるようです。彼の思いがチャンスと呼び寄せたと考えれば必然かもしれません。幸運の女神に後ろ髪がないように、天使もあつというまに飛び立ってしまいます。さて、彼はエンジェルとの出会いを生かすことができるでしょうか？

中尾「昨日は、ごちそうさまでした。」

大藪「どういたしまして。昨日の話は面白かったからさ、今日はその続きを聞きたいな。」

中尾「今日は事業計画書を持ってきましたので、見て下さい。」

## 事業目的及び事業内容

### ・事業目的

日本ではあまり知られていない世界中にある素敵なものを紹介し、それにふれ合った個人の生活を楽しくする。

### ・事業内容

オーストラリアのケアンズに在住している、アボリジナルアートを作成しているアーティストグループから仕入れた商品を日本で販売する。

中尾「大藪さんは、なぜ海外旅行へ行かれるんですか？」

大藪「そうだなあ。今まで自分が知らなかった世界と出会うのが楽しいからかなあ。」

中尾「私たちは日本人ですが、感性は人それぞれ違っています。人は自分の感性に合う、文化やモノを求めています。世界各地から素敵な商品を紹介し、今までは満たされていなかった感性を満足させることによって、世の中を楽しくできるようなビジネスをやりたいんです。」

大藪「それはいいね。世界からもっと多くの文化が日本へ入ってくれば、それだけ日本人の感性の幅が広がるしね。モノが不足している時代は、消費者は均質な製品を安い値段で手に入れることを望んでいた。でも、現在のようにモノがあふれている時代には、消費者はもっとわがままになって自分の感性にあったものしか買わなくなったからね。」

中尾「そうですね。だから私は、日本人の感性に合う商品を世界中から紹介したいんです。」

大藪「そうか。それでその第一歩がアボリジナルアートの輸入なのか。」

中尾「そのとおりです。それでは、私が輸入を考えている商品の説明に入らせていただきます。」

# 商品説明

## ・アパレル関連

アボリジナルアートがプリントされた数十種類にも及ぶTシャツの他にも、バック、スカーフ、帽子等があります。

## ・アボリジナル・パネル

アボリジナル・パネルとは、布に有名アーティストのアボリジニアートをプリントしたもので、額縁に入れて壁に飾ったりします。

## ・アクセサリー

イヤリング、ペンダント、ブローチ等

## ・雑貨

マグカップ、マウスパット、ペーパーナイフ、フォトフレーム、コースター等

大藪「ほお、ずいぶん色々な商品があるんだなあ。」

中尾「他にも商品がありますが、主に上で説明した商品を日本で販売しようと思っっています。」

大藪「実際の商品を見ることはできないの？」

中尾「今日はTシャツとアボリジナル・パネルを持ってきました。ご覧下さい。」

大藪「このTシャツのプリントはとても綺麗だね。すごくお洒落だ。生地もしっかりしているし、なかなか、いいんじゃないかな。」

中尾「それでは、次にアボリジナル・パネルを見て下さい。」

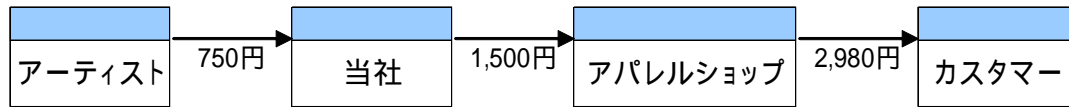
大藪「ああ、これはまた美しい。僕がオーストラリアで見たアボリジナルアートには、ここまで洗練されたものはなかったなあ。」

中尾「アーティストによって、作品のレベルはだいぶ違います。私はこのアーティストグループの作品を見た瞬間にこれはいけると感じました。」

大藪「僕もそう思うよ。これはいけそうな気がするなあ。」

中尾「そう言っただけだと嬉しいです。それでは次に流通経路及び価格モデルについて説明させていただきます。」

## 流通経路及び価格モデル



Tシャツの小売価格は1枚1,500円ですが、1種類100枚以上、1回の注文で1,000枚以上注文することを条件に小売価格の半額で購入できるように交渉しました。Tシャツの価格モデルでは、仕入値を1枚750円で計算しています。

他の商品についても、ほぼ同じ条件でボリュームディスカウントをしてもらうことが可能です。

中尾「まず、流通経路について説明させていただきます。実は私の叔父が貿易商をやっているんで、今回のビジネスプランを話したところ叔父の会社で輸入手続を行ってもらえることになりました。」

大藪「へー、おじさんが貿易商なんだ。それでは価格モデルの説明をしてくれ。」

中尾「先ほど紹介した、Tシャツを例に説明させていただきます。先ほどのTシャツは現地で購入すると日本円で約1,500円ですが、大量購入を条件にボリュームディスカウントをしてもらえることになりました。」

大藪「なるほど、さっきの商品であればアパレルショップなら、2,980円で売っても売れそうだね。最初はもっと値段を高くしてもいいかもしれないな。君のプライシングの発想はコストにいくらマージンを乗せて売るかだよな。」

中尾「はい。そうです。」

大藪「アパレル商品なんかは特にそうだと思うけど、プライスっていうのはお客さんがいくら出すかなんだよね。それなりのグレードのある店で、綺麗にディスプレイしてあれば3,980~4,980円で売ってもいいと思う。できるだけ、いいお店に売って値崩れを起こさないようにしないとね。安く仕入れた商品ができるだけ高く売るのが商売の基本だよ。」

中尾「確かにおっしゃる通りですね。これで事業計画の説明を終わらせていただきます。ありがとうございます。私のアイデアはいかがでしょう？」



大藪「うーん。そうだな、難しいところだな。商品はいいと思うけど、まだまだ君の事業計画には物足りなさを感じるな。」

中尾「そうですか。」

大藪「ところで、このビジネスプランはいつ作ったんだい？」

中尾「昨日の夜です。」

大藪「え、確か昨日は夜中の2時くらいまで、飲んでいたよな。それから作ったのかい？」

中尾「ええ。昨日大藪さんは、『君のビジネスアイデアをもっとよく聞きたいなあ。明日なら大丈夫なんだけど、明日を逃すと、しばらく時間がないんだよなあ。明日でも大丈夫かい？』とおっしゃいましたよね。」

大藪「ああ、言ったよ。君が大丈夫って言ったから、てっきり僕はビジネスプランができてると思ってたよ。」

中尾「そのとき思ったんです。チャンスは生かさなければならぬと。今日を逃したらいつ話を聞いていただけるか分からないじゃないですか。既に自分の頭の中にアイデアはあったので、何とか明日までに形にできるのではないかと考えたんです。」

大藪「昨日の今日だから寝ずに作ったんだろ。」

中尾「ええ。まあ、そんなところです。」

大藪「そうか……。ところで普段の休みの日は何をしているの？」

中尾「そうですねえ。その週に訪問した得意先に対する反省と、来週訪問する得意先に対する提案の内容の検討ですかねえ。先方の出方を色々シュミレーションしておかないと、こちらの思い通りに話を持っていくことはできないですから。」

大藪「それで、思い通りに話を持っていけるようになったのかい？」

中尾「まだまだ、思い通りにはならないことが多いです。まだまだ、未熟と感じています。ただ、昔よりは私の提案が得意先に受け入れられるようになりました。」

大藪「この世の中は、なかなか思う通りにはならないよね。ただ、自分のことを未熟と感じていればこれからも成長できると思う。そういえば、この前の居酒屋の話では君はたくさん本を読んでいるようだったけど、どうやってその時間を作っているんだい？」

中尾「本を読む時間といったら、主に通勤途中と食事中とお風呂に入っているときですね。読みたい本はたくさんあるのですが、読む時間がないのが悩みの種なんです。」

大藪「すごい執念だねえ。でも、それだけ何かを吸収したいんだろな。」

中尾「仕事で起こった問題を何とか解決したいと思って、その関連の本をよく

読みます。本を読んでいると、ひらめくものがあるって、その考えをもとに行動します。それでも解決できなかつたら、先輩や同期に相談したり、また別の本を買ってきて考えるというサイクルを繰り返すうちに大体解決してしまいますね。まあ、ときには私の力ではどうしようもないこともあります。」

大藪「君は起業家としての素質はありそうだね。自分でビジネスを行うと、予期しない問題がいろいろと起こるから、それを解決できるか否かで成功か失敗が決まるんだ。いくらビジネスプランが優れていても、それを実行していく上での問題を解決できなければ、そのビジネスは失敗してしまうからね。」

中尾「それはそうですね。」

大藪「だから最近ではビジネスプランよりも、ビジネスプランを持ってきた人間をよく見て投資するかどうか決めることにしたんだ。ところで、いくら必要なんだい？」

中尾「このビジネスに必要な資金は総額 2,000 万円と考えています。すでに自己資金が 500 万円ありますので、残りの 1,500 万円を現在集めているところです。」

大藪「1,500 万円か。じゃ残りを全部出すよ。」

中尾「本当ですか！」

大藪氏「君という人間は面白そうだからね。まず、共同パートナーとしての出資比率を 50%にするために、500 万円を出資するよ。残りの 1,000 万円は年 3%で貸すよ。」

中尾「どうもありがとうございます！」

大藪「覚えておいて欲しいのは、ビジネスでは会社としてのシステムをきちんと整えない限り成功することは難しいということだ。だからこれからは、システムを作るための基礎となる経営や会計についても本気で勉強して行って欲しい。誰か、君をサポートしてくれる人はいるかい？」

中尾「うーんそうですね。そういえば友人の望月が会計士なんで、そいつに聞いてみようと思います。」

大藪「わかった。じゃ頑張ってみたまえ。君の成功を期待しているよ。」

中尾「今日はありがとうございました。」

## プロジェクトチーム

中尾君から電話が掛かってきました。

中尾「望月、今大丈夫か？」

望月「おお、久しぶりだなあ、中尾。どうしたの急に？」

中尾「実は俺のビジネスプランを気に入ってくれて、お金を出してくれる人が現れたんだ。これで夢だった自分のビジネスを始めることができるよ。」

望月「へー、それはおめでとう。ところでどんなビジネスを始めるんだい？」

中尾「俺がオーストラリアに旅行したときにアボリジナルアートに魅せられたって言ったよな。」

望月「ああ、旅行から帰って来たときに『俺はオーストラリアで素晴らしいものを見つけたぞ！』って興奮してたよね。」

中尾「だから、アボリジナルアートの輸入販売をすることにしたんだ。それにしても、物事って上手くいくときは、不思議なくらい上手くいくものだな。」

望月「そうかも知れないね。」

中尾「それでな、望月に頼みがあるんだ。俺のビジネスにお金を出してくれた大藪さんから、ビジネスで成功するためには経営と会計の勉強をしなければならぬと言われたんだ。望月は会計士としての立場からいろいろな会社を見てきただろ。悪いけどさ、経営や会計について教えてくれないか？」

望月「僕のわかる範囲で良かったら教えるよ。ただ、会計はともかくとして、経営は何が正しいかを教えることはできないよ。まあ、経営の基本くらいは教えることができると思うけど。」

中尾「それで十分だよ。どうもありがとう。ところで望月、会計って何なんだ？」

望月「いきなり本質的な質問だね。一言で言うのは難しいな。中尾はこれからどんなビジネスをするつもりなのかい？」

中尾「そうだな。少しでも多くの人に世界中の素敵なものを紹介して、世の中を楽しくできるようにになりたいと思っている。」

望月「多くの人に楽しんでもらうには、ビジネスの規模を大きくする必要があるよね。」

中尾「ああ。ビジネスを順調に成長させて、数年後には株式公開を目指している。

そして、多くのお客さんや俺の会社で働く社員が楽しめる空間を創っていくのが夢なんだ。」

望月「でっかい夢だねえ。本当に実現できるのかい？」

中尾「いい質問だな。俺は夢を実現するために今から10年間の計画を作ってい

るんだ。

その中では、7年後に上場することになっている。もちろんそんなに上手くはいかないかもしれないけど、失敗しても成功するまでやり続けるよ。」

望月「よし、分かった。君にとって会計は夢をかなえるツールといったところかな。」

中尾「夢をかなえるツール？」

望月「会計には次の2つの役割があるんだ。」

投資家や銀行とのコミュニケーションツール ビジネスの意思決定に役立つツール
------------------------------------------

望月「君の夢は将来会社を大きくして上場させることだよな。」

中尾「ああ。上場することによって、多くの人を俺のビジネスで喜ばせたいんだ。」

望月「上場するためには、投資家に会社の価値を伝える必要があるよね。そのためには、会社のビジネスモデルだけではなく、そのビジネスモデルがどのくらいの利益を生むかをアピールしなければならない。」

中尾「たしかにそうだよな。『新しくこんなビジネスをはじめます。』だけじゃあ説明にならないよな。ビジネスの中身だけではなく、今後どの位の投資が必要なのか、そして、いつどのように利益を上げるのかを説明しないと投資家は納得してくれないよな。」

望月「銀行からお金を借りる時にも、同じように説明しないとイケないよね。要するに会社にお金を出してくれる人は、ビジネスモデルだけではなく、会計数値をととても重要視するということだ。」

中尾「つまり、きちっと会計を学んで投資家や銀行に会社の価値を伝えられるようになれって言いたいんだな。」

望月「相手が興味を持っていることを分かりやすく伝えることが、円滑なコミュニケーションの秘訣だよな。そう言った意味では、会計は会社経営者にとっては必須のコミュニケーションツールなんだ。」

中尾「ビジネスの意思決定に役立つツールっていうのはどういう意味だい？」

望月「ビジネスで生き残っていくためには、環境の変化に対して戦略を変えていく必要があるよね。」

中尾「ああ、そうだな。」

望月「環境の変化に合わせて、事業計画を変えなければいけないよね。そのときには利益がどのようになるのかを緻密にシミュレーションしないと大変なことになるからね。」

中尾「利益の数字のシミュレーションをするためには、会計を知らなければいけないってことだよな。」

望月「そういうこと。」

中尾「ビジネスを行うために、会計を身につけなければならないのはよく分かった。だけど今の俺には会計の知識が不足している。悪いけど望月、基礎から教えてくれないか。」

望月「まかしといて。せっかく君が夢に向かって第一歩を踏み出そうとしているのだから、喜んで協力するよ。」

中尾「じゃあ今から世界に通用する企業を創るというビックプロジェクトを始めろぞ。」

そのプロジェクトメンバーに望月が入っているのは、とても心強いよ。」

望月「え、僕もプロジェクトメンバーの一員なのかい。まあ、いっか。じゃあ、報酬は出世払いで頼むよ。」

中尾「俺は将来世界を動かす男だからな。その時にたっぷり払ってやるよ。」

望月「頼んだよ。じゃあ、君がビジネスを始める前に会計の基礎を説明するよ。」

## 第2章 会計と簿記の基礎

すぐにでも中尾君がビジネスに挑んでいく姿をお見せしたいのですが、今後のストーリーを楽しむためには若干の会計知識を必要とします。そこで第2章で会計と簿記の基本を説明し、第3章で中尾君の活躍をお見せします。第2章では以下の4項目について説明します。

1. 株式会社、投資家、債権者、会計のホットなトライアングル 会計とは「コミュニケーションツール」である  
株式会社の成長には会計というツールを使いこなす必要があります。そこで、最初に株式会社と会計の関係について説明します。
2. 新会社法で要求されている財務諸表とは 貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書のアウトラインを知っておこう  
会社は通常1年に1度、業績を判断するために財務諸表を作成します。ここでは、新会社法よって作成を要求される財務諸表について簡単に説明します。
3. たった30分で分かる簿記のツボ  
会社の財務諸表を作成するには簿記を理解する必要があります。簿記は難しいと思っている方も多いと思いますので、「たった30分で分かる簿記のツボ」というのを作ってみました。簿記の仕組みはとてもシンプルです。とりあえず30分だけお付き合い下さい。
4. 新会社法で要求されている財務諸表とは 貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書を実際に読んでみよう  
ここでは株式会社の財務諸表を見ながら、「2. 新会社法で要求されている財務諸表とは」を掘り下げて説明していきます。

簿記は第3章でも説明しますので、ここではイメージをつかんでいただければ結構です。簿記の仕組みはとてもシンプルなため、何度も説明を読むうちに自然に理解できると思います。簿記は「習うより慣れろ」ともよく言われていますので。それでは、最初に株式会社と会計の関係を説明します。

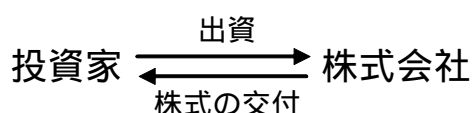
## 1. 株式会社、投資家、債権者、会計のホットなトライアングル 会計とは「コミュニケーションツール」である

世の中にはお金を投資することによって利益を生み出したい投資家と、ビジネスを立ち上げてお金を儲けたいと考えている起業家があります。

起業家はビジネスを始める時に出資をしてくれる投資家を探しています。多くのお金が必要なときは、数多くの投資家から出資をしてもらう必要があります。

投資家と起業家が対一の関係であれば、直接お金を出してもらい、儲かったらお礼をするという方法で良いかもしれませんが、投資家の数が増えると混乱してしまいます。また、直接起業家にお金を渡すと起業家個人の財産との区別がつきにくくなってしまいます。

そこで起業家個人の財産と、投資家から預かった財産を区別するための「箱」のようなものとして、株式会社が考えられました。投資家と株式会社の関係は次のようになります。



投資家は出資の対価として、**株式**を受け取ります。株式とは会社の持分を細かく分けた物なので、投資したお金に比例した株式を受け取ります。なお、株式を所有している人を**株主**といいます。

会社は感覚的には従業員のもののような気がしますが、法律上は会社経営に必要なお金を出した株主のものです。従って株主総会では、株主は持っている株式数に応じた決定権を持つことになります。

株主は会社経営に参加するだけでなく、配当を受け取ることや、会社が儲かって株式の価値が増加することも期待します。

株式会社の資金調達方法は株式の発行以外にも、銀行などから借り入れも考えられます。そこで、株式の発行と借り入れによる資金調達は株式会社にとってどのように違うかを比較してみましょう。

(株式による資金調達)

	投資家	会社
メリット	配当収入(インカムゲイン)だけではなく、株式値上がり益(キャピタルゲイン)を得られ、大きく儲かる可能性がある。	調達した資金を返済する必要がない。
デメリット	会社が倒産した場合、借入金が優先的に返済され、株主には残余財産しか分配されない。	会社経営に口を出される。

(借入金による資金調達)

	債権者	会社
メリット	万が一会社が倒産した場合でも、借入金が優先的に返済される。	会社経営に口を出されない。
デメリット	契約で決めた利子しか受け取れないため、大きく儲かることはない。	調達した資金を決められた期限に返済しなければならない。

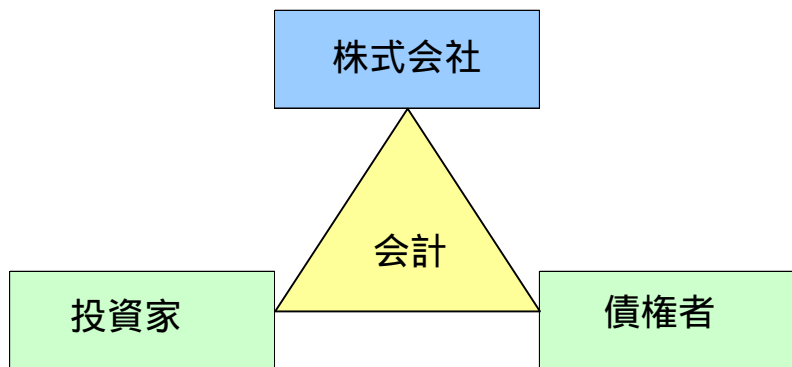
会社にとって、株式で資金調達する一番大きなメリットは、調達した資金を返済する必要がないことです。出資した資金は会社から返してもらうことができないため、株主が資金を回収したいときには、株式を他人に売却することになります。

日本企業の株主は、伝統的に経営に口を出さなかったため、「物言わぬ株主」と言われていましたが、最近は株主利益を重視する経営を行っていくべきと発言する株主が増えてきました。その理由としては、昔は株式の持ち合いによる安定株主が多かったのですが、最近は企業に余裕がなくなってきたため、持ち合い構造が崩れてきたからです。

安定株主の代わりに、海外の機関投資家や個人が株式を持つようになってきたため、株主は会社の経営を経営陣に任せっきりにするのではなく、経営に対して発言することも多くなってきました。

それでは次に、株式会社と投資家及び債権者との間にコミュニケーションツールとしての会計が必要な理由を説明します。三者の結びつきを図で表すと次のような会計を中心としたトライアングルとなります。





投資家は財産が増えることを期待して、財産を株式会社の経営者に委託します。財産が元本より増えたときに、株式会社から投資家に対して配当が支払われます。

銀行などの債権者は貸したお金が予定どおり返済されることを期待して、資金の提供を行い対価として利子を受け取ります。

投資家はいつも投資対象を探していますが、外から見ているだけではどの株式会社が良いのか分かりません。多くの株式会社の中から投資を行う会社を選択するためには、客観的に企業の業績を判断できる情報が必要となります。

また、債権者も同様に、客観的に企業の業績を判断できる情報がなければ、企業に対してお金を貸すのは難しくなります。

そこで会計という株式会社の活動を客観的に表すツールが考え出されました。会計の役割というのは、株式会社のありのままの姿を表すことです。会計というツールを使うことによって株式会社は投資家や債権者から必要な資金を調達することができるようになりました。

会計を使って必要な情報を投資家や債権者に伝える必要がありますが、各会社が自分勝手に成績表を作っていたら、それを見た投資家や債権者は混乱してしまいます。そのため、新会社法では作成しなければならない会社の成績表が決められています。

次は新会社法で要求されている、会社の成績表を説明します。

2. 新会社法で要求されている財務諸表とは 貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書のアウトラインを知っておこう

新会社法で要求されている会社の成績表は、次の3種類です。  
ちなみに、会社の成績表は一般的に**財務諸表**とよばれていますが、新会社法での正式な名称は**計算書類**といいます。

1. 貸借対照表

貸借対照表とは期末時点の会社の財政状態を表しています。財政状態とは、株主や銀行から調達した資金を、どのような資産で運用しているかということです。

2. 損益計算書

損益計算書とは、会社の1会計期間の経営成績を表しています。1会計期間は通常1年です。

3. 株主資本等変動計算書

株主資本等変動計算書とは、1会計期間の貸借対照表の純資産の部の増減を表しています。株主資本等変動計算書は新会社法で初めて作られるようになりました。

注1) 上場企業では上記の3つの財務諸表に加えて、1会計期間の資金の流れを説明するキャッシュフロー計算書があります。キャッシュフロー計算書は上場企業でしか作成されないため、「会計のトリセツ」では説明を省略させていただきます。

言葉だけではイメージがわからないと思いますので、次は実際の財務諸表を見ながら説明します。詳しい内容は「4. 新会社法で要求されている財務諸表とは」で説明しますので、ここではイメージをつかんでいただければ結構です。

## 1. 貸借対照表

### 貸借対照表

(平成19年3月31日現在)

(単位:万円)

(資産の部)		(負債の部)	
現金預金	500	買掛金	300
		短期借入金	600
売掛金	500	未払金	200
建物	1,000	負債合計	1,100
投資有価証券	500	(純資産の部)	
		資本金	1,000
		利益剰余金	400
		純資産合計	1,400
資産合計	2,500	負債・純資産合計	2,500

貸借対照表の左側には資産、右側には負債と純資産があります。それでは、資産、負債、純資産の意味について説明します。

資産・・・現預金及び将来お金が増えるプラスの財産

例) 現預金、商品、売掛金、建物、機械、投資有価証券など

負債・・・将来お金が減るマイナスの財産

例) 買掛金、借入金、未払金、退職給付引当金など

純資産・・・資産から負債の金額をマイナスした株式会社がもっている正味の財産

例) 資本金、資本剰余金、利益剰余金など

貸借対照表を見ると、会社が銀行から借りたお金や株主から出資してもらったお金を使って、建物や投資有価証券を購入してビジネスを行っているのがわかりますよね。そのため、貸借対照表は期末時点の財政状態を表していると説明されます。

## 2. 損益計算書

### 損益計算書

(自18年4月1日 至平成19年3月31日) (単位:万円)

売上高	3,000
売上原価	1,500
売上総利益	1,500
販売費及び一般管理費	1,000
営業利益	500
営業外収益	50
受取利息及び配当金	50
営業外費用	100
支払利息	100
税引前当期純利益	450
法人税、住民税及び事業税	260
法人税等調整額	80
当期純利益	270

損益計算書は会社の1会計期間の経営成績を表しています。

損益計算書では収益から費用を差し引いて、会社の成績である利益を計算します。

それでは、収益と費用について説明します。

収益・・・損益計算書に記載される項目の中で会社の純資産を増やすもの  
例) 売上高、受取利息、受取配当金など

費用・・・損益計算書に記載される項目の中で会社の純資産を減らすもの  
例) 売上原価、給料、賃借料、広告宣伝費、支払利息など

### 3. 株主資本等変動計算書

株式会社の目的は、ビジネスを行うことにより利益を計上し、会社の正味の財産である純資産を増やすことです。純資産とは資産から負債を差し引いた会社の正味の財産でしたよね。

会社が利益を上げると、株式会社の純資産が増加します。株式数が同じ状態で純資産が増加すると、1株当たりの純資産が増加し株式の価値が高まります。それでは、簡単な数字を使って1株当たり純資産の増加について説明します。

平成18年4月1日 会社の設立時に1株1万円で100株を募集した。  
株式数 100株 純資産の金額 100万円 1株当たり純資産 1万円  
平成18年4月1日～平成19年3月31日の損益計算書の当期純利益 100万円  
平成19年3月31日  
期首の純資産に当期純利益の金額を足すと、期末時点の1株当たり純資産は2倍になった。  
株式数 100株 純資産の金額 200万円 1株当たり純資産 2万円

1年間で1株当たり純資産が2倍になるような会社は今後も成長が期待されるため、他の投資家も株式を手に入れたいと考えます。そのような会社はさらに新株を発行し、必要な資金を集めることができます。

株式会社にとって純資産の増減はとても重要な情報のため、新会社法では株主資本等変動計算書が作られることになりました。株主資本等変動計算書とは、1会計期間の貸借対照表の純資産の部の増減を表しています。実際の株主資本等変動計算書は次のようになります。

#### 株主資本等変動計算書

(自18年4月1日 至平成19年3月31日) (単位:万円)

	株主資本		合計
	資本金	利益剰余金	
前期末残高	800	130	930
当期変動額			0
新株の発行	200		200
当期純利益		270	270
当期末残高	1,000	400	1,400

株主資本等変動計算書の当期末残高の資本金と利益剰余金の数字は、19ページの貸借対照表の資本金の金額 1,000 万円と利益剰余金 400 万円と一致しています。

株主資本等変動計算書から次のことを読み取ることができます。

前期末に 800 万円あった資本金が、当期の新株発行によって 200 万円増加し、1,000 万円となった。

前期末に 130 万円あった利益剰余金が、当期の損益計算書で計上された当期純利益によって 270 万円増加し、400 万円となった。

及び の理由により当期中に純資産の金額が 930 万円から 1,400 万円に増加した。

3. たった 30 分で分かる簿記のツボ 仕訳には財産（純資産）が「増える」「減る」「変わらない」の 3 パターンしかない！

株式会社は株主からの出資や銀行からの借入などによってビジネスを行うため、財産の増減について正確に記録する必要があります。単に財産が増えたか減ったかを記録すれば良いわけではなく、増えた理由や減った理由を正確に記録しなければなりません。

また、経営者は財産が増えた理由や減った理由をすぐに株主や銀行に説明できるようにする必要もあります。そこで、財産が増えたか減ったかだけでなく、その理由を同時に記録する**簿記**というテクニックが考え出されました。

簿記で一番大切なのは、**仕訳**を覚えることです。

**仕訳**とは会社の活動を簿記のルールに従って記録することです。

ちなみに会社の活動を簿記の用語では**取引**といいます。

会社の活動（取引）の結果、会社の純資産（資産から負債をマイナスした株式会社の正味の財産）は次の 3 パターンに変化します。

純資産が増える 純資産が減る 純資産は変わらない
--------------------------------

簿記は会社の純資産の増減を記録するテクニックです。純資産の増減が 3 パターンしかないということは、簿記の仕訳も 3 パターンしかありません。

純資産が増減したときの仕訳は次のようになります。

純資産が増えたときの仕訳	
（借方）増えた財産	（貸方）財産が増えた理由
純資産が減ったときの仕訳	
（借方）財産が減った理由	（貸方）減った財産
純資産が変わらないときの仕訳	
（借方）増えた財産	（貸方）減った財産

仕訳は必ず「借方」、「貸方」がペアになります。ちなみに「借方」、「貸方」には特に意味があるわけではなく、「借方」とはペアの左側、「貸方」とはペアの右側のことです。

それではケーススタディを使って実際の仕訳を説明していきます。仕訳をするときには、資産、負債、純資産、収益、費用の意味が重要となるので、復習をかねてもう一度ここで説明します。

資産・・・現預金及び将来お金が増えるプラスの財産

例) 現預金、商品、売掛金、建物、機械、投資有価証券など

負債・・・将来お金が減るマイナスの財産

例) 買掛金、借入金、未払金、退職給付引当金など

純資産・・・資産から負債の金額をマイナスした株式会社がもっている正味の財産

例) 資本金、資本剰余金、利益剰余金など

収益・・・損益計算書に記載される項目の中で会社の純資産を増やすもの

例) 売上高、受取利息、受取配当金など

費用・・・損益計算書に記載される項目の中で会社の純資産を減らすもの

例) 売上原価、給料、賃借料、広告宣伝費、支払利息など

なお、簿記については第3章の「ストーリーを楽しみながら簿記を学ぶ」で何度も説明していますので、あまり分からなくても何となくこんなものだなとイメージしていただければ結構です。



## 純資産が増えたときの仕訳

純資産が増えたときの仕訳 (借方) 増えた財産	(貸方) 財産が増えた理由
----------------------------	---------------

それでは会社の活動（取引）によって会社の純資産が増えたときの仕訳を説明します。

### ケース 1

株主から 1,000 万円の出資を受けた。出資されたお金は会社の普通預金口座に振り込まれた。

(単位：万円)

(借方) 普通預金 1,000	(貸方) 資本金 1,000
-----------------	----------------

会社の資産である普通預金が 1,000 万円増加したため、「借方」に増加した財産である「普通預金」と記載します。また、普通預金は株主からの出資により増加したため、「貸方」には財産が増えた理由として「資本金」と記載します。この取引により資産である「普通預金」と純資産である「資本金」がともに 1,000 万円ずつ増加しました。

このように仕訳では必ず、「借方」と「貸方」の金額は一致します。

ちなみに「普通預金」や「資本金」などの仕訳の際に使う名称のことを勘定科目といいます。勘定科目とは、実際に使ったお金をどのように分類して、整理するかという箱のようなものだと考えて下さい。

## ケース 2

預金の利息を受け取ったため、普通預金が 5 万円増加した。

(単位：万円)

(借方) 普通預金 5

(貸方) 受取利息 5

会社の資産である普通預金が 5 万円増加したため、「借方」に増加した資産である「普通預金」と記載します。また、普通預金は利息の受取により増加したため、「貸方」には資産が増えた理由として「受取利息」と記載します。この取引により資産である「普通預金」と収益である「受取利息」がともに 5 万円ずつ増加しました。

ちなみに、収益である受取利息が 5 万円増加すると、損益計算書の当期純利益が 5 万円増加します。当期純利益が 5 万円増加するということは、最終的に会社の純資産（正味の財産）を 5 万円増加させることとなります。

純資産が減ったときの仕訳	
(借方) 財産が減った理由	(貸方) 減った財産

それでは会社の活動（取引）によって会社の純資産が減少したときの仕訳を説明します。

ケース 1	
当月に発生した電気代 5 万円を現金で支払った。	
(単位：万円)	
(借方) 電気代 5	(貸方) 現金 5

会社の資産である現金が 5 万円減少したため、「借方」に財産が減少した理由として「電気代」と記載します。「貸方」には減少した財産である「現金」と記載します。この取引により費用である「電気代」が 5 万円発生し、資産である「現金」が 5 万円減少しました。

ちなみに、費用である電気代が 5 万円増加すると、損益計算書の当期純利益が 5 万円減少します。当期純利益が 5 万円減少することは、最終的に会社の純資産（正味の財産）を 5 万円減少させることとなります。

## ケース2

当月に広告宣伝費が100万円発生した。支払は来月末に行うことになった。

(単位：万円)

(借方) 広告宣伝費 100

(貸方) 未払金 100

広告宣伝費という費用が100万円発生したため、会社の純資産が100万円減少します。そのため、「借方」に減少した理由である「広告宣伝費」と記載します。

それでは「貸方」にはどのように記載すれば良いのでしょうか？

ケース1では、当月発生した電気代を当月に現金で支払ったため、貸方に減少した資産として「現金」と記載しました。それに対してケース2では来月支払を行うため、当月は会社の資産は減少しません。

しかし、広告宣伝というサービスをすでに利用したため、来月100万円支払うという義務が発生しました。従って貸方には負債（マイナスの財産）である「未払金」と記載します。

ちなみに、資産の減少とマイナスの財産である負債の増加は、会社の正味の財産に与える影響は同じになります。

なお、費用である広告宣伝費が100万円増加すると、損益計算書の当期純利益が100万円減少します。当期純利益が100万円減少するということは、最終的に会社の純資産（正味の財産）を100万円減少させることになります。

純資産が変わらないときの仕訳  
(借方) 増えた財産 (貸方) 減った財産

ケース 1

土地を 1,000 万円で購入した。代金の支払いは普通預金で行った。

(借方) 土地 1,000 (貸方) 普通預金 1,000 (単位：万円)

会社の資産である土地が 1,000 万円増加したため、「借方」に増加した財産である「土地」と記載します。また、土地の増加と引き替えに普通預金が減少したため、「貸方」には減少した財産として「普通預金」と記載します。

この取引により資産である「土地」が増加しましたが、資産である「普通預金」が同額減少したため、会社の純資産には変化がありません。

## ケース 2

銀行から 1,000 万円の借入を行った。借入れたお金は普通預金口座に入金された。

(単位：万円)

(借方) 普通預金 1,000

(貸方) 借入金 1,000

会社の資産である普通預金が 1,000 万円増加したため、「借方」に増加した財産である「普通預金」と記載します。また、普通預金は銀行からの借入により増加したため、「貸方」には減少した財産として「借入金」と記載します。(「借入金」はマイナスの財産なので、マイナスの財産が増加するのと、プラスの財産が減少するのは同じ意味になります。)

この取引により資産である「普通預金」と負債である「借入金」がともに 1,000 万円ずつ増加しました。プラスの財産である資産とマイナスの財産である負債が同額増加したため、資産から負債をマイナスした会社の純資産には変化がありません。

最後にもう一度仕訳について説明します。

仕訳とは、会社の取引を「普通預金」「土地」などの勘定科目を使用して「借方」「貸方」に分けて記載することです。

勘定科目は大きく分けると「資産」「負債」「純資産」「収益」「費用」の5種類に分けることができます。5種類の勘定科目には、次のような性質があります。

「資産」「費用」・・・増加した場合は「借方」に記載し、減少した場合は「貸方」に記載する。

「負債」「純資産」「収益」・・・増加した場合は「貸方」に記載し、減少した場合は「借方」に記載する。

ケーススタディの中で資産である「普通預金」が増加した場合は「借方」、減少した場合は「貸方」に記載しました。負債である「借入金」「未払金」が増加した時には、「貸方」に記載しました。

また、収益である「受取利息」が増加したときは「貸方」に記載していましたが、費用である「電気代」「広告宣伝費」が増加した時は「借方」に記載しました。

言葉だけだと分かりにくいと思いますので、イメージしやすいように図で表してみます。

資産、負債、純資産、収益、費用が増加した場合をプラス、減少した場合はマイナスで表すと、次のようになります。

(借方)	資産	(貸方)	(借方)	負債	(貸方)
+		—	—	+	
(資産の増加)		(資産の減少)	(負債の減少)	(負債の増加)	

(借方)	純資産	(貸方)
—		+
(純資産の減少)		(純資産の増加)

(借方)	費用	(貸方)	(借方)	収益	(貸方)
+		—	—	+	
(費用の増加)		(費用の減少)	(収益の減少)	(収益の増加)	

ちなみに、増加した場合に「借方」に記載する「資産」と「費用」を借方科目といいます。これに対して、増加した場合に「貸方」に記載する「負債」「純資産」「収益」を貸方科目といいます。

簿記については、第3章の「ストーリーを楽しみながら簿記を学ぶ」で何度も説明しますので、何となくこんなものだなとイメージしていただければ結構です。それでは、次に「4. 新会社法で要求されている財務諸表とは」でもう一度財務諸表について説明します。



4. 新会社法で要求されている財務諸表とは 貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書を実際に読んでみよう

## 貸借対照表

### 貸借対照表

(平成19年3月31日現在)

(単位:万円)

<b>(資産の部)</b>			<b>(負債の部)</b>		
<b>流動資産</b>		<b>990</b>	<b>流動負債</b>		<b>650</b>
現金預金	100	支払手形	100		
受取手形	250	買掛金	150		
売掛金	150	短期借入金	200		
有価証券	50	未払金	50		
商物品	300	未払法人税等	150		
短期貸付金	100				
繰延税金資産	100				
貸倒引当金	60				
<b>固定資産</b>		<b>1,500</b>	<b>固定負債</b>		<b>450</b>
1 有形固定資産		1,000	社債		150
建物	500	長期借入金	200		
機械装置	150	退職給付引当金	100		
工具器具備品	50				
土地	300				
2 無形固定資産		70	<b>負債合計</b>		<b>1,100</b>
ソフトウェア	70	<b>(純資産の部)</b>			
3 投資その他の資産		430	<b>株主資本</b>		<b>1,500</b>
投資有価証券	150	1 資本金	800		
子会社株式	200	2 資本剰余金	200		
長期貸付金	50	資本準備金	200		
繰延税金資産	30	3 利益剰余金	500		
		利益準備金	100		
		その他利益剰余金	400		
<b>繰延資産</b>		<b>10</b>	<b>評価・換算替等</b>		<b>100</b>
社債発行差金	10	その他有価証券評価差額金		100	
		<b>純資産合計</b>		<b>1,400</b>	
<b>資産合計</b>		<b>2,500</b>	<b>負債・純資産合計</b>		<b>2,500</b>

実際の貸借対照表は多くの科目が記載されていて分かりづらいため、最初にこの貸借対照表を6区分に要約した図を使って説明します。

流動資産	990	流動負債	650
固定資産	1,500	固定負債	450
繰延資産	10	純資産	1,400

前ページの貸借対照表の細かい科目を省略して、大きな区分だけを表示すると上の図のようになりました。とてもすっきりして、分かり易くなったのではないのでしょうか。

経営分析をするときは、最初に貸借対照表の6区分の数値に注目して全体の傾向を把握した後に、細かい科目を分析していきます。6区分の内容は次のようになります。

#### 1. 流動資産

流動資産とは、商品や売掛金等の短期間に現金で回収される予定の資産を表しています。

#### 2. 固定資産

固定資産とは、建物、ソフトウェア、投資有価証券等の長期的に保有することにより、企業経営に役立てる資産を表しています。

#### 3. 繰延資産

繰延資産とは、新株発行費等のすでに発生した費用の中で、将来の効果が期待されるものを繰り延べた時に発生した資産を表しています。

#### 4. 流動負債

流動負債とは、支払手形、買掛金、短期借入金等の概ね1年以内に支払う予定の債務を表しています。

#### 5. 固定負債

固定負債とは、負債の中で流動負債以外のものを表しています。

#### 6. 純資産

純資産とは、資産から負債を差し引いたものであり、株主の持分を表しています。

## 損益計算書

### 損益計算書

(自18年4月1日 至平成19年3月31日) (単位:万円)

売上高	3,000
売上原価	1,500
売上総利益	1,500
販売費及び一般管理費	1,000
営業利益	500
営業外収益	50
受取利息及び配当金	50
営業外費用	100
支 払 利 息	100
経常利益	450
特別利益	-
特別損失	18
固定資産売却損	18
税引前当期純利益	432
法人税、住民税及び事業税	260
法人税等調整額	98
当期純利益	270

損益計算書には、営業利益、経常利益等の色々な利益が出てきます。経営分析をするときには、各利益が何を表しているかが重要となります。それではここで、損益計算書の各項目について説明していきます。

1. 売上高  
株式会社が商品やサービスを提供することによって受け取った金額を表しています。
2. 売上原価  
商品やサービスを提供するために直接的に発生するコストを表しています。
3. 売上総利益  
売上高から売上原価を差し引いた利益を表しています。売上総利益を、別名「粗利」といいます。
4. 販売費及び一般管理費  
営業や管理部門の人件費、広告宣伝費等の商品やサービスを提供するために間接的に発生するコストを表しています。
5. 営業利益  
通常の営業活動から獲得した利益を表しています。
6. 経常利益  
営業利益に、通常の営業活動以外から経常的に発生する受取利息や支払利息等を加えた利益を表しています。

7 . 税引前当期純利益

経常利益に、固定資産売却損等の特別に発生した収益や費用を加減算した利益を表しています

8 . 法人税、住民税、事業税

当期に支払わなければならない、法人税、住民税、事業税の金額を表しています。

9 . 法人税等調整額

税効果会計によって当期の税金の額に加減算する金額を表しています。

10 . 当期純利益

当期のすべての企業活動から獲得した利益を表しています。

## 株主資本等変動計算書

### 株主資本等変動計算書

(自18年4月1日 至平成19年3月31日)

(単位:万円)

	株主資本				評価・換算差額等		新株 予約権	純資産 合計
	資本金	資本剰 余金	利益剰 余金	自己 株式	その他有価証券 評価差額金	土地再評 価差額金		
前期末残高	600	200	230	0	0	0	0	1,030
当期変動額								0
新株の発行	200							200
当期純利益			270					270
株主資本以外の 項目の変動額					100			100
当期末残高	800	200	500	0	100	0	0	1,400

株主資本等変動計算書の当期末残高の数字は、33ページの貸借対照表の純資産の部の数値と一致しています。また、当期変動額の行の利益剰余金の増加270万円は、35ページの損益計算書の当期純利益の数値と一致しています。

会社の純資産の中には損益計算書の当期純利益によって増加する部分と、株主からの出資のように、損益計算書には計上されず直接貸借対照表の純資産を増加させるもの2種類があります。

損益計算書に計上されずに直接貸借対照表の純資産を増減させるものには、一般の会社が所有する株式の評価損益（上記の表の中では「その他有価証券評価差額金」に該当します。）自己株式の取得、売却金額等があります。自己株式とは、自分の会社が発行した株式を、自分の会社の財産として所有している株式のことを表しています。

また表の右上の部分に記載されている新株予約権とは、会社に対して、一定の期間内にあらかじめ決められた金額で新株の発行を請求できる権利のことをいいます。

### 第3章 ストーリーを楽しみながら簿記を学ぶ

「第2章 会計と簿記の基礎」はいかがだったでしょうか。簿記や会計の仕組みは抽象的な部分があり、少し取っ付きにくい部分もあったと思います。

第3章は中尾君が活躍するストーリーに従って会計の説明をしていくため、第2章よりも具体的なイメージがわかりやすいと思います。ストーリーが進むにしたがい、中尾君は経営者として成長していき、この本を読んでいただいているみなさまの会計知識も成長していきます。

ここからは、会社の設立から決算までに行われる企業活動を、下の表の10個のPHASEに分割し、各場面で必要とされる会計と簿記の説明を行っていきます。また各PHASEの間には、新会社法や事業計画の作り方などの役立つコラムがあります。

それでは、会計の全体像が理解できるストーリーをお楽しみ下さい。

PHASE 1	株式会社イースタン・ヴィークルの設立	コラム	会計は夢をかなえる羅針盤
PHASE 2	初めての売上が上がった！	コラム	プライシングが利益に与える影響
PHASE 3	アポリジナルアートが大流行	コラム	黒字にするにはいくら売上を上げれば良いか
PHASE 4	運転資金が足りない。イースタン・ヴィークルはピンチを乗り切れるか	コラム	新会社法でこう変わる
PHASE 5	自社ビルの購入？	コラム	会社の中身はオーダーメイド
PHASE 6	A商事の倒産 売掛金は回収できるのか！	コラム	黄金株ってどんな株？
PHASE 7	イースタン・ヴィークル銀座へ進出？	コラム	三角合併で敵対的買収が増えるって本当？
PHASE 8	新しい仲間との出会い	コラム	LLPとLLCは何が違うのか
PHASE 9	(決算1) ・月次の会計処理 ・決算整理仕訳	コラム	会計参与
PHASE 10	(決算2) ・財務諸表の作成	コラム	会社を作っても税金が安くないの？

## PHASE 1 (株式会社イースタン・ヴィークルの設立)

中尾「大藪さんから『資金の用意ができたからいつでも出資できる』と連絡があったよ。」

望月「よかったね。やっと夢への第一歩を踏み出せたね。」

中尾「ああ。これでやっと会社を作って自分で事業を起こせるようになった。」

望月「『よ、社長。』と言いたいところだけど、とりあえず儲かるまでは会社を作らずに、個人事業主として事業を行う方がいいんじゃないかな。会社はビジネスの見通しが立ってから作ればいいことだし。」

中尾「コストのことを考えればそうかもしれないけどさ、ビジネスで会社を相手にするには、株式会社としての肩書きがあるか否かによって信用がだいぶ違うんだよ。」

望月「そう言われるとそうかもしれないな。ビジネスを行っていくためには会社があった方がやりやすいかもしれないね。そういえば会社名はどうするんだい？」

中尾「会社名はイースタン・ヴィークルにするつもりだ。」

日本というのは、世界から見たらイーストだよな。俺の夢は世界を動かすビジネスをすることだから、世界レベルで見た俺の位置づけという意味でイースタンという言葉を使っているんだ。ヴィークルは乗り物という意味で、新しい未来にみんなを連れて行く。そんな目的を持った会社にしたかったんだ。

ビジネスを通じてみんなを幸せに出来るなんて素晴らしいだろ。つまり、自分のいる場所(日本)から新しい未来を目指してより良い社会を作っていきたい。そういう思いを込めてるんだ。」

望月「そっか。会社名にはそんなに大きな意味が込められていたんだ。会社名に負けないようにビジネスを行っていかないとね。」

中尾「ああ。じゃあ早速会社を作ろうと思うよ。」

望月「善は急げというから、すぐに設立手続に入りなよ。君のようなベンチャー企業はスピードが命だからね。他の競争相手が参入してくる前に、得意先からの信頼を勝ち取っておかないとね。」

中尾「ああ、得意先から信頼されるように頑張るよ。とりあえず初年度から黒字化を目指さないとな。」

望月「普通ベンチャー企業は立ち上げ期は赤字になってしまうけど、君のビジネスはそれほど初期投資を行うわないから、もしかすると黒字にできるかもしれないね。とりあえず、君のビジネスが軌道に乗るまでは一生懸命サポートするよ。」

## 1. 会計上の取引

会社の活動にはいろいろありますが、会計上の「取引」として気をつけなければいけないのは、現在及び将来のお金を増やしたり減らしたりする活動です。

お客さんに対して商品を販売するときには、通常は次のような行動をします。

見込み客に対してアポイントを取る
お客さんと商談を行う
お客さんに見積書を提出する
お客さんが注文する
お客さんに対して商品を渡し、お金を受け取る。

から まですべて会社の活動ではありますが、会計上の取引となるのは「お客さんに対して商品を渡し、お金を受け取る。」という活動です。従って の活動が行われた時点で、会計上の取引が行われたと考えます。

会計上の取引が行われたときに、簿記の仕訳を入力する必要があります。

の活動が行われたときは次のような仕訳を入力します。この仕訳の意味については、PHASE 2 で説明していますので、ここでは分からなくて結構です。

(借方) 現金	XXX	(貸方) 売上	XXX
売上原価	XXX	商品	XXX



それではPHASE 1で行われた取引を簿記の仕訳にしてみましょう。まず、復習をかねて各勘定のイメージ図をご覧ください。

(借方)	資産	(貸方)	(借方)	負債	(貸方)
+	—	(資産の増加)	(資産の減少)	—	+
				(負債の減少)	(負債の増加)

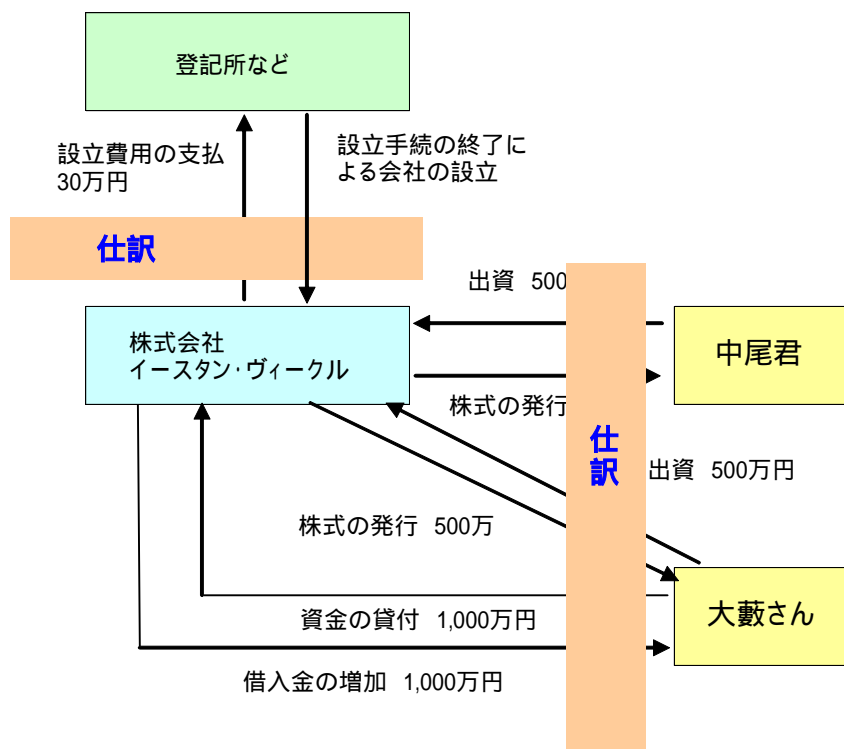
(借方)	純資産	(貸方)
—	+	(純資産の減少)
(純資産の減少)	(純資産の増加)	

(借方)	費用	(貸方)	(借方)	収益	(貸方)
+	—	(費用の増加)	(費用の減少)	—	+
				(収益の減少)	(収益の増加)

増加した場合に「借方」に記載する「資産」と「費用」を借方科目、その反対に増加した場合に「貸方」に記載する「負債」「純資産」「収益」を貸方科目といたしましたよね。

(取引イメージ)



中尾君の自己資金が 500 万円あり、これに加えて大藪氏からの資金提供が 1,500 万円あった。中尾君と大藪氏の出資比率を半々とし、資本金 1,000 万円の株式会社を設立した。大藪氏から資金提供された残りの 1,000 万円は借入金とした。なお、払い込まれた資金は全額普通預金口座に入金した。

(単位：万円)

(借方) 普通預金	2,000	(貸方) 借入金	1,000
		資本金	1,000

まず、自己資金と大藪氏からの資金提供の合計が 2,000 万円あるため、資産である普通預金が 2,000 万円増加します。資産は「借方科目」なので、増加した場合は「借方」に普通預金 2,000 万円と記載します。先ほども説明しましたが、「借方科目」とは増加した場合「借方」に記載するという意味です。

株主が資金を 1,000 万円払い込むことにより会社に対する持分が増加したため、純資産である資本金が 1,000 万円増加します。純資産は「貸方科目」なので増加した場合は「貸方」に資本金 1,000 万円と記載します。

また、大藪氏からの資金提供の中で、資本金とならなかった残りの 1,000 万円は借入れのため、負債である借入金が 1,000 万円増加します。負債は「貸方科目」なので増加した場合は「貸方」に借入金 1,000 万円と記載します。

会社の設立費用として 30 万円を普通預金から支払った。これは繰延資産の創立費として計上する。

(単位：万円)

(借方) 創立費	30	(貸方) 普通預金	30
----------	----	-----------	----

会社設立時に発生する費用は、発生時に費用として損益計算書に計上する処理と支払った金額をいったん資産として計上し、計上した資産を決められた年数で費用として損益計算書に計上する処理の 2 種類から選択することができます。

企業活動を行っていく上で発生した取引について会計処理の方法が 2 種類以上ある場合、経営者はいずれか一つの会計処理の選択をしなければなりません。この選択した会計処理方法を「会計方針」といいます。

中尾君は設立時に発生した費用は今後ビジネスを行っていく期間で負担した方が良く考えたため、設立費用の 30 万円を資産として計上し、今後ビジネスを行っていく期間で費用化する会計処理を選択しました。そのため、資産である創立費が 30 万円増加します。

創立費という科目名は費用のような名前ですが、資産の勘定科目の一つです。資産は「借方勘定」なので、増加した場合は「借方」に創立費 30 万円と記載します。また、外部に支払を行ったため資産である普通預金が 30 万円減少します。資産は「借方勘定」なので、減少した場合は「貸方」に普通預金 30 万円と記載します。

会社設立時に発生した費用を繰り延べる際に「創立費」という資産勘定を使用しましたが、この資産を「繰延資産」といいます。繰延資産については、P H A S E 7 で詳しく説明します。

## 2. 仕訳の集計

上記、の仕訳を集計すると次のようになります。各勘定科目の残高を集計する帳簿を**総勘定元帳**といいます。普通預金のように借方と貸方と両方の勘定に金額がある勘定は、差額を次のように記載します。各 P H A S E の集計過程に出てくる総勘定元帳には、単位が記載されていませんが、すべて単位は万円と考えて下さい。

(借方)	普通預金	(貸方)	(借方)	借入金	(貸方)
	2,000	30			1,000
		1,970			

(借方)	創立費	(貸方)	(借方)	資本金	(貸方)
	30				1,000

また、総勘定元帳残高を集計した一覧表を**残高試算表**といいます。残高試算表に決算時に必要な調整を行ったものが外部に公表する財務諸表となります。イメージとしては、月次決算時に作られる簡便的な貸借対照表と損益計算書を残高試算表と置いていただければ結構です。

今回の残高試算表は次のようになります。今回は損益に関する取引はなかったため、P H A S E 1 終了時点で作成されるのは貸借対照表のみとなります。

貸借対照表 (単位:万円)			
(借方)	(PHASE1現在)	(貸方)	
(資産)		(負債)	
普通預金	1,970	借入金	1,000
創立費	30	(純資産)	
		資本金	1,000

## 会計のトリセツ目次

無料レポート「ストーリーで分かる簿記の基本」はいかがだったでしょうか。この原稿の完全版が日本実業出版社から発売している「＜数字がダメな人用＞会計のトリセツ」となります。

会計のトリセツ紹介ページ

<http://ac-intelligence.jp/torisetsu/index.html>

下記に「会計のトリセツ」の目次を紹介します。もしご興味がありましたら、書店で手に取っていただければ幸いです。最後まで読んでいただき、本当にありがとうございました。

### 【第1章】 会計の超基本

- 1 - 1 投資家は起業家のどこを見ているのか  
エンジェルとの出会い
- 1 - 2 株式会社、投資家、債権者、会計のホットなトライアングル  
会計とは「コミュニケーションツール」である

### 【第2章】 簿記と財務諸表の超基本

- 2 - 1 会計はビジネスの意思決定にも役立つ  
プロジェクトチーム結成
- 2 - 2 財務諸表（計算書類）って何？  
貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書のアウトラインを知っておこう
- 2 - 3 たった30分で分かる簿記のツボ  
仕訳には財産（純資産）が「増える」「減る」「変わらない」の3パターンしかない！

## 2 - 4 これだけは知っておきたい！ 財務諸表の読み方

貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書を実際に読んでみよう

### 【第3章】 会計のトリセツ・本編

- フェーズ1 会計上の取引とは（株式会社の設立）  
コラム 会計は夢をかなえる羅針盤
- フェーズ2 現金売上はいいことづくめ（初めての売上が上がった！）  
コラム プライシングが利益に与える影響
- フェーズ3 掛売上には見えないリスクが・・・（アポリジナルアートが大流行）  
コラム 黒字にするにはいくら売上を上げれば良いか
- フェーズ4 運転資金はある日突然必要になる！？（資金ショートの危機）  
コラム 新会社法で会計はこう変わる
- フェーズ5 固定資産の会計処理はちょっと複雑（自社ビルの購入？）  
コラム 会社の中身はオーダーメイド
- フェーズ6 貸倒引当金の計上にはいくつかの要件がある（得意先の倒産  
売掛金は回収できるのか！）  
コラム 黄金株ってどんな株？
- フェーズ7 費用は配分の仕方に注意（イースタン・ヴィークルが銀座へ  
進出？）  
コラム 三角合併で敵対的買収が増えるって本当？
- フェーズ8 人件費とは意外にかかるもの（新しい仲間との出会い）  
コラム LLP と LLC は何が違うのか
- フェーズ9 決算整理仕訳でさまざまな調整を図る（初めての決算）  
コラム 会計参与の果たす役割
- フェーズ10 予算と実績の差をチェックする（数字の裏に見えるもの）  
コラム 会社を作っても税金が安くないの？

## 著者プロフィール

望月 実

1972年愛知県名古屋市生まれ。  
立教大学卒業後、大手監査法人に入社。  
監査、株式公開業務、会計コンサルティング等を担当。  
2002年に独立し、望月公認会計士事務所を設立。  
ドラッカー学会会員。

多くのビジネスマンから仕事で数字をどう使えば良いかという質問を受けた経験より、現在は「日本人を数字に強くする」をミッションとして執筆活動、セミナー、人気メルマガ「経済丸わかり～公認会計士が教える使える知識」の発行など精力的な活動を展開中である。

著書に「数字がダメな人用」会計のトリセツ、「会計を使って経済ニュースの謎を解く」(共に日本実業出版社)がある。

著者 Web サイト URL

「アカウントティング・インテリジェンス」

<http://ac-intelligence.jp/>

## 望月実の書籍

< 数字がダメな人用 > 会計のトリセツ



私も会計の勉強は苦痛でしたが、実際に仕事で会計を使うようになると、会計って面白いなと感じるようになりました。

それは、会計を知っているからこそ見えてくる世界があるからです。

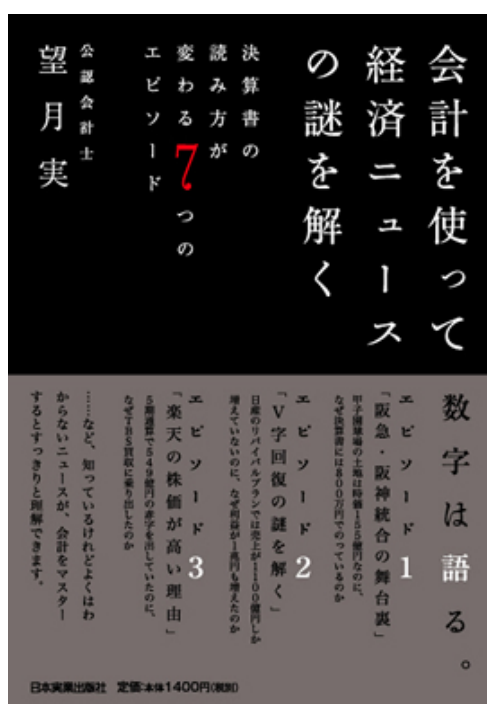
そこで、私が現場で使っている会計をそのまま実況中継したところ、今までにない会計入門書ができました。

この方法ならば回り道をせずに、会計の一番美味しい部分から勉強を始めることができますので。

「会計のトリセツ」紹介ページ

<http://ac-intelligence.jp/torisetsu/index.html>

会計を使って経済ニュースの謎を解く



会計を難しいと感じるのは、決算書の数字と実際のビジネスの結びつきをイメージすることができないからです。

そこで本書では、ライブドア、日産、楽天、阪急・阪神の統合などの話題になった経済ニュースを題材として、

「ビジネス」、「会計」、「決算書」をバランス良く説明し、それらがどのように結びついているのかをイメージできるようになっています。

「会計を使って経済ニュースの謎を解く」紹介ページ

<http://ac-intelligence.jp/mystery/index.html>



## 有価証券報告書を使った決算書速読術



実際に会計士や投資のプロ、成果を上げている営業マンのように「できる人」は、有価証券報告書を道具として使い、決算書から必要な情報を取り出しています。

本書では実際に営業マンがどのように有価証券報告書を使って戦略を立てているか、私自身が行った決算書トレーニングの中で、いちばん効果的だった方法など会計をビジネスに役立てる方法がいろいろ書かれています。

「有価証券報告書を使った決算書速読術」

紹介ページ

<http://ac-intelligence.jp/sokudoku/index.html>